

舞台俳優として活躍することを渴望する若いひとたち、
この時代のための新しい演劇を、或いは本来あるべき真の演劇を模索したい人たち、
感性のアンテナを張り巡らせてほしい！
手軽に手に入る情報だけでなく、本当は自分が何を求めているのか、今どこで“風”が吹き始めているのか、自分自身のアンテナで見つけてほしい！

長野県松本市には「まつもと市民芸術館」という演劇のための、そして芸術文化のための施設があり、そして劇団「TC アルプ」もある。
今年は KAAT 神奈川芸術劇場と『マンイストマン』を上演し、東京芸術劇場と『K. テンペスト 2019』を上演した。この『K. テンペスト 2019』は、セルビアのノビサド市と、ルーマニアのシビウ国際演劇祭でも公演する。

私は松本で育ち成長した「TC アルプ」の俳優たちと新しい舞台作品をつくり続け、松本市民にも支持されている。一方、「まつもと演劇工場」の前身は加藤直氏を工場長に、7年間週末に活動を続けて来た歴史があり、独自のスタイルを築き上げ「風の劇場」として現在もアウトリーチ活動などを続けている。

昨年秋に再スタートした「まつもと演劇工場 NEXT」は、実に画期的な舞台俳優のための演劇学校である。そこでは演じることの基礎となる多くを学ぶと同時に、何故それを学ばなければならないのかを考え、実際に演じてみる。舞台作品として観客に観てもらおう。そして再び学ぶべきことを考える。訓練と実践をくり返す。

講師たちにとっても「演劇工場 NEXT」はただ生徒のために教えるだけの場ではなく、自分自身の演劇と真摯に向き合う大切な機会でもある。

私は今年3月にひと月間、実際の公演のための稽古のような時間を持った。そこに工場長の加藤直氏、演出家の木内宏昌氏、舞踊家の山田うん氏も参加し、さらに「TC アルプ」の俳優たちも加わり、工場生たちと夢中になって自分たちの演劇を探す旅をし、その成果を市民の皆さんにも観ていただいた。その他にも演出家の長塚圭史氏、杉原邦生氏、白神ももこ氏らをはじめ、多くの方々が指導にあたってくださった。今年もきっと思いもよらぬクリエイターたちと刺激的な出会いがあることを私自身も楽しみにしている。

そして、この「演劇工場 NEXT」で育った新たな俳優たち、演劇人たちが、この新しい演劇の土地・松本で次なる活動を展開していくことを楽しみに期待している。

君たちは気づいているだろうか？ この芸術文化の町松本に、“風”が吹いていることを！

昨年秋にスタートした「演劇工場 NEXT」の1期生は、7月6日、7日に『地図のない旅・劇場へ』と題した発表公演をおこなう。
7月19日～28日には恒例となった『空中キャバレー』もおこなわれる。
「まつもと演劇工場 NEXT」2期生の応募締め切りは7月25日（木）！
詳しくは、まつもと市民芸術館にお問い合わせいただきたい。

串田 和美

(まつもと市民芸術館芸術監督／演出家、俳優)